

研究分野	病理	部名	研究開発部
研究課題名	魚病診断事業		
予算区分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	S.56～		
担当	田村 直明・松田 忍		
協力・分担関係	なし		

#### 〈目的〉

青森県内における淡水魚の魚病を診断し、魚病被害の抑制および防疫対策に役立てることを目的とする。

#### 〈試験研究方法〉

##### 1. 魚病診断

養殖業者等から検査依頼があった病魚、および河川等でのへい死事故により持込のあった検体について、ウイルス、細菌、真菌及び寄生虫の検査を行った。

ウイルス性疾病の診断は株化細胞による培養法で行い、細胞変性が見られた場合には、中和試験または細胞変性の特徴によりウイルスを同定した。

細菌性疾病の診断は、寒天培地での培養法により行い、菌の分離が見られた場合には、凝集反応試験、性状試験などにより同定した。また、必要に応じて PCR 検査を行った。

##### 2. 薬剤感受性試験

分離された細菌について、ディスク法による薬剤感受性試験を行った。

##### 3. アユ放流種苗の冷水病保菌検査

河川放流されたアユ種苗について、放流時に検体を採取し、PCR 法による冷水病保菌検査を行った。

#### 〈結果の概要・要約〉

##### 1. 魚病発生時における診断

表 1 に魚種別疾病別診断件数を、表 2 に月別診断件数を示した。

今年度の診断件数は 22 件であり、魚種別では、ニジマスが 8 件と最も多く、その他コイ類が 6 件などであった。月別では 4、6、8 月の件数が多かった。

ウイルス性疾病では、コイ類の KHV 病が 4 件あったが、マス類での IHN 等の発生は見られなかった。

細菌性疾病では細菌性鰓病が 5 件と最も多く、その他、冷水病が 4 件発生した。

##### 2. 薬剤感受性試験

表 3 に薬剤感受性試験結果を示した。アユのピブリオ病のみであったが、塩酸オキシテトラサイクリンとスルフィソゾールには感受性が見られなかった。

##### 3. アユ冷水病の保菌検査

県内の 2 河川で放流されたアユ人工種苗について、2006 年 5 月 25 日と 6 月 11 日にそれぞれ検体 40 尾と 60 尾を採取し検査を行ったが、冷水病菌は検出されなかった。

<主要成果の具多的なデータ>

表1 魚種別疾病別診断件数

(平成18年4月～平成19年3月)

疾病名	魚 種						計
	ニジマス	イワナ	サケ	サクラマス	アユ	コイ類	
KHV病						4	4
運動性エロモナス症						1	1
細菌性鰓病	3	1		1			5
せっそう病		2					2
BKD+冷水病				1			1
ピブリオ病			1				1
冷水病	3				1		4
水腫症				1			1
その他(飼育環境等)	1						1
不明	1					1	2
計	8	3	1	3	1	6	22

表2 魚種別月別診断件数

(平成18年4月～平成19年3月)

魚 種	診 断 月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
ニジマス	5		1	1								1	8
イワナ			1		2								3
サケ		1											1
サクラマス		1			1						1		3
アユ					1								1
コイ類			3	1	1		1						6
計	5	2	5	2	5	0	1	0	0	0	1	1	22

表3 薬剤感受性試験結果

(平成18年4月～平成19年3月)

魚 病	薬 剤			
	塩酸オキシテトラサイクリン	オキシリン酸	フロルフェニコール	スルフィソゾール
ピブリオ病(アユ)	-	+++	+++	-

<結果の発表・活用状況等>

県魚類防疫会議で報告予定。